

## 滑川の障害者作業所 民家のカキ収穫代行



カキの実を収穫するあすなる  
倶楽部の通所者ら＝滑川市内

クマによる人身被害を未然に防ごうと、滑川市北野の就労継続支援B型事業所「あすなる倶楽部」は、市の協力を得てクマの餌となる民家のカキの実を住民に代わって収穫し、提供してもらった実をドライフルーツにして販売している。高齢などの理由で実の処分に困っている人の助けになり、通所者の就労経験にもなる取り組みで、関係者は「農福連携」によるクマ対策として広めたい考えだ。

(久保智洋)

## ドライフルーツで販売

滑川市内では本年度、人身被害は起きていないものの、目撃・痕跡情報は29件(19日時点)で、昨年度の

県内では今年、クマの出没が増えている。県自然保護課によると、今年の出没件数は18日時点で591件と例年の約3・5倍となっている。人身被害は5件で、19日にも南砺市で女性が襲われる被害があった。山の木の实が不作で、多くのクマが餌を求めて人里に下りてきているとみられ、各自治体がカキの実の除去を呼び掛けている。

10件を大幅に上回る。

あすなる倶楽部は、一般就労を目指す障害者を受け入れ、農作業や軽作業の場を用意している。これまでも食品乾燥機を導入し、リンゴやミニトマトなどをドライフルーツにして販売してきた。

カキの実の処分に取り組むようになったのは2年前。当初は知人の紹介などを頼りに同倶楽部だけで行ってきたが、対象をさらに広げるため市に協力を求めた。今年11月から市が橋渡し役となり、市民か

## クマ対策 農福連携

ら相談を受け付けて同倶楽部に紹介する仕組みにした。

収穫したカキの実は、同倶楽部がドライフルーツにして販売するほか、市内の幼稚園や市民健康センターなどにおやつとして提供している。

市農林課は「行政だけで民家の敷地内のことに対応するのは限界があり、ありがたい。住民の不安を取り

除く取り組みとして協力し続けたい」としている。同倶楽部の北村憲幸理事長は「これこそ本当の農福連携だと思つ。通所者にとっても良い就労経験になり、工賃アップにもつながる活動にしてほしい」と話している。



ドライフルーツ  
にしたカキ